

1. 「美郷町地域ぐるみで取り組む6次産業化基本構想」(以下「基本構想」という) にかかるとテストマーケティング

基本構想のコンセプトが町にとって実現可能な取り組みか実証するため、次の各種テストマーケティングを実施します。

①異業種サロンによる地域内経済循環と外貨獲得の実践

町内事業者・行政・関係機関・及び主催者の過去の名刺交換先から、異業種サロンの意図に沿う方を招いた会合を年1回のペースで実施します。地域ぐるみで取り組む6次産業化の推進拠点を体現したイベントとし、事業者商品のPR・町内取引活性化の為のマッチング・町外バイヤーとの商談会・試食会・基調講演・技術講習等、詳細はその年の町内事業者のニーズに合った取り組みとすることで地域内経済の循環と外貨獲得の実践を目指します。

イベント名称:「美郷町異業種サロン」

②若草 HUTTE を活用した交流人口獲得イベントの実施

株式会社 HUTTE が営業する若草 HUTTE と提携し、宮崎市内から関係人口を獲得できるイベントを実施します。同イベントにおいては、民間の発信力を活かし、集客活動まで委託することで、本町への誘引力をより高めるものとします。現段階では、本町の食文化を体験する試作・試食会を想定しており、イベント参加者に対して継続的に美郷町と関わりが持てるよう情報・イベントの投げかけを行っていくことで、将来的には移住・事業承継の候補者予備群としていきます。

イベント名称:「美郷町食の承継リレー MISATO BATON(ミサトバトン)」

③魅力ある生産者応援リストの整備及び補助事業による支援

本町の一次産品生産者のうち「事業意欲の高い方」を支援する為の「魅力ある生産者応援リスト」を整備します。定額制の補助事業と組み合わせることで、本町の一次産品そのもののブランド化、及び事業者単独での6次産業化についても、サポートを行う足がかりを作ります。また、リストに登録された商品については、町及び推進拠点等が販売面でのサポートも行っていきます。

④美郷町そばプロジェクトの実施

高原町のはなどうと提携し、蕎麦の栽培に取り組めます。マーケットインの発想で取り組む1次産業に対して出資者を募り、町民個人が町の産業に主体的に携わることに對する成功体験を積みます。テストマーケティングの結果は、本町の重点誘引事業を検討する指針としていきます。また、おせりの滝民話伝承館の手打ち蕎麦の事業継承も併せて検討します。

⑤日向利久庵を活用した特産品販売イベントの実施

高鍋町内及びイオンモール宮崎内に拠点を持つ日向利久庵と提携し、特産品の販

売イベントを実施します。日向利久庵の知名度向上と栗を使用した菓子の販売力強化は、本町の発信力・交流人口獲得機能を強化するだけでなく、栗餡を製造する栗処さいごうの利益率UPにもつながります。これは、最終的には栗の一次産業従事者に買い取り単価として還元される為、重要度の高い取り組みと考えられます。

⑥テナント利用可能な物件リストの整備

“美食の郷”としての展開が、本町の現状で可能な取り組みか判断する為、テナントとして利用可能な物件(空き家)リストを整備します。これにより、飲食店・料理人の誘致に対して提供できる情報量が増える他、付随して移住検討者に対する情報提供量も増えることが見込まれます。リスト作成にあたっては、OttOOttOの杉本氏とも提携し、開業に向けた改修の必要性の有無等アドバイスをもらい、情報の信用力を高めます。

⑦美郷 M★1グランプリの開催

美郷の食が楽しめる参加者投票型のイベントを御田祭等と併設して実施します。(例:ふるさとうまいもん広場のリニューアル)なお、イベントにおいては投票者を「(仮)美郷美食倶楽部」の会員にすることで、美郷の食の情報をより多くの方に発信出来る環境を整備します。また、イベント終了後に町内飲食店で利用出来る割引券を準備することで、繁忙期後の町内事業者の売上づくりに活かします。名称に星を入れている為、星空等の別の観光要素との接続も可能です。

⑧地産地消率向上に向けた学校給食と事業者の協議会設立

美郷町食育・地産地消推進計画によると、平成25年度の学校給食における地場産品の活用状況は原材料費総額に対して12.6%となっており、そのうちの61.2%を美郷米が占めています。消費量が多く物流コストが軽減出来る地場の学校給食において地場産品への代替率を増やすことは、町内での経済循環を推し進める重要な取り組みとなります。

⑨積極的なジビエの町内消費に向けた文化の醸造

地域資源であるジビエを有効利用する為には、鮮度と品質の高いジビエが地元で食べられることが不可欠です。技術的な鮮度の維持向上はもちろんですが、まずは地元でジビエを食する文化が経済活動と結びつくよう、美郷ジビエ工房を中核とした環境整備、商品開発を進めます。

⑩栗栽培担い手機関の育成

本町において、栗の生産と加工は密接な関係がありますが、1次産業における栗生産単独で生計を立てているケースは少なく、将来的には生産量が落ち込む可能性があります。潜在するリスクを本町の持つ強みと変える為、栗栽培の担い手機関を育成することで、テストマーケティング後の重点実施事業を検討する礎としていきます。

組織名:「美郷町を栗で元気にする協議会」

<令和元年度に実施するテストマーケティング>

- ①異業種サロンによる地域内経済循環と外貨獲得の実践
- ②若草 HUTTE を活用した交流人口獲得イベントの実施

<令和2年度に実施予定のテストマーケティング>

- ①異業種サロンによる地域内経済循環と外貨獲得の実践
- ②若草 HUTTE を活用した交流人口獲得イベントの実施
- ③魅力ある生産者応援リストの整備及び補助事業による支援
- ④美郷町そばプロジェクトの実施
- ⑤日向利久庵を活用した特産品販売イベントの実施
- ⑥テナント利用可能な物件リストの整備
- ⑦美郷 M★1 グランプリの開催
- ⑧地産地消率向上に向けた学校給食と事業者の協議会設立
- ⑨積極的なジビエの町内消費に向けた文化の醸造
- ⑩栗栽培担い手機関の育成

2. その他

- ①「美郷町 HUTTE 支所」(宮崎市に開設する美郷町のサテライトオフィス)の設置

テストマーケティング期間中はもちろん、基本構想を実現可能なものとするには、関係人口の獲得が必須となります。若草 HUTTE のコワーキングスペースを活用し、本町のサテライトオフィスを宮崎市内に設立することで、話題性を得ることはもちろん、関係人口獲得機能を強化します。

- ②メディアの徹底活用

基本構想推進時は、ありとあらゆる場面でメディアを活用することを前提とします。メディアと深いパイプを持つことで、主に県内に対する本町の露出度は高まり、それは結果として基本構想の取り組みを大きく後押しするものとなります。

その為、「その取り組みはメディアが取り上げたいものか」メディアを顧客として位置づけた各種テストマーケティングの事前・事後検証を丁寧に行うものとします。